

## 令和8年第2回渋谷区教育委員会定例会会議録

- 1 開会日時 令和8年1月22日(木) 午前10時00分
- 2 閉会日時 令和8年1月22日(木) 午前11時10分
- 3 場 所 渋谷区役所4階教育委員会室
- 4 出席者

### (委員)

|            |           |
|------------|-----------|
| 教育長 伊藤 林太郎 | 委員 平岩 国泰  |
| 委員 大日方 邦子  | 委員 加藤 良太郎 |
| 委員 田丸 尚稔   | 委員 松本 理寿輝 |

### (事務局職員)

|            |        |
|------------|--------|
| 教育委員会事務局次長 | 篠原 保男  |
| 教育政策課長     | 齋藤 貢司  |
| 未来の学校担当課長  | 堀江 崇   |
| 未来の学校担当課長  | 岡部 尚徒  |
| 学務課長       | 横手 麻理  |
| 教育指導課長     | 安部 忍   |
| 教育センター所長   | 間嶋 健   |
| 地域学校支援課長   | 山上 ますみ |

(書記) 島田 直子 福德 友理香

- 5 会議の概要 別紙のとおり

## 協議

(1) 渋谷区の教育目標と重点的な取組について

[資料1：渋谷区の教育目標と重点的な取組]

(2) 令和7年度修了式・卒業式祝辞について

[資料2：令和7年度修了式・卒業式祝辞（案）]

## 議事運営等

- 令和8年第2回教育委員会定例会を開会
- 未来の学校担当課長（岡部課長）が遅参
- 1名の傍聴希望を許可
- 議事録署名に大日方委員を指名

## ■ 教育長報告要旨

- まず、1月18日にしぶやニュー駅伝が開催された。中学生も参加しており、男子・女子共に松濤中学校のチームが優勝した。また、1月17日・18日には大学入学共通テストが行われ、これから順次高校入試や中学入試が始まっていく。最終学年の子供たちは次の進路に向けた大事な時期に入ってくる。

## ◆ 協議 1

### 渋谷区の教育目標と重点的な取組について

#### —◇ 説明要旨 —————

（※別紙資料1に基づき教育指導課長が説明）

- 渋谷区の教育目標と重点的な取組について、前回12月18日の教育委員会で協議いただいた案からの変更点を中心に説明する。まず、2ページをご覧ください。水色のマーカー部分が変更部分になる。渋谷区の教育目標の下に記載のある序文に「子どもたちの『好き』をとことん追究し、」を追記している。次に、3ページでは「学校運営に係る」を追記している。学校の建替えや基盤更新などが、重点事項には入っておらず、基本的に学校運営に係る事項となっているため、「学校運営に係る重点的な取組」とした。次に、令和8年度7つの力を育むための重点的な取組についてである。内容について、重点取組02、03及び05の文章を一部変更した。初めに、重点取組02である。本文の1行目の文頭に、「個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの視点から、」を文中から移動した。また、2行目の後半から3行目にかけて「また、架け橋期の連続性を確保し、幼児期からこれらの力の基礎を培います。その実現にむけて、」を追記した。文章の構成として、前半に子供たちが身に付ける力、後半に教員が取り組むことを示すよう、文章の順番を入れ替えている。続いて、重点取組03である。3行目の文末表現を「整備します」から「子どもたちと一緒につくります」に変更している。続いて、重点取組05である。1行目の中ほど「地域と共創する学校づくり」を「地域と共創し、探究する学校づくり」とした。また、1行目から2行目にかけて「教育課程外でも子どもたちが健やかに成長できるよう、小学校で朝安心して楽しく過ごせる見守り体制の整備や放課後の豊かな体験機会を創出するとともに、」を追記した。続いて、5ページから9ページまでは、各重点取組における【目指す姿】と【実現するための

具体的な方策】である。これまでは【実現するための具体的な方策】については、項目を箇条書きで記載していたが、「何の目的で何に取り組むのか」が分かるような文章表現にし、実施することを具体的に明記した。まず、5ページの重点取組01「子ども主体の『未来の学校』づくりの推進」から説明する。右側の枠内の【実現するための具体的な方策】として、「子ども主体の対話による学校運営を推進するため、全校ミーティングや学校運営協議会への参画等の仕組みづくりを図ります。そして、特別活動（学級活動、児童会生徒会活動、委員会活動等）や地域・学校行事の中で、ルールメイキングや行事改善、新たなイベント等子どもたちが主体となった取組を実現します。」など3点示している。次に6ページでは、重点取組02「一人ひとりの“ちがひ”が生きる新たな学び・探究の推進」である。こちらにも、【実現するための具体的な方策】の記載を目的と具体的な取組が分かるような文章表現としている。1点目の「新たな学びを全校で展開するため、青山・西原キャンパスで先駆的な取組を実施し、シブヤ『未来の学校』モデルを発信します。」など5点示している。次に7ページは重点取組03「誰でも安心・安全に挑戦できる教育環境の整備」である。1点目、「多様な特性を包摂するインクルーシブな教育の実現にむけて、交流学习や共同学習を充実させるとともに、互いの特性を理解する教育を実施します。また、個々の特性に応じた、きめ細かな教育環境の整備にむけ、多様な学びの場の整備や教員の指導力向上を図ります。」など7点示している。次に8ページは、重点取組04「テクノロジー活用によるDXの加速化と教員の働き方改革の推進」である。業務負担の軽減だけでなく、教員のエンゲージメントの向上も重視し、【目指す姿】に「『教員が日々の業務に対し、やりがいや誇りを感じられる』学校づくり」を追記した。【実現するための具体的な方策】では【目指す姿】に合わせて、「教職員の業務負担を軽減するため、ICTを活用して校務を効率化します。また、教育の質の向上を図るため、クラウド環境を活用した指導の充実・効率化を図ります。」など4点示している。最後に、9ページは、重点取組05「地域と子どもの未来を共創する学校の推進」である。まず【目指す姿】に「『教育の方針を、家庭、地域に分かりやすく伝え、理解と協力を得て、教育活動を推進する』学校づくり」を追加している。また、【実現するための具体的な方策】として、「地域と共創する学校づくりを推進するため、コミュニティ・スクールを推進するとともに、地域学校協働本部とも連携して地域行事への参画や各地域内での小中連携を促進します。」など4点示している。

—◇質疑応答

(教育長)

○重点取組02の本文が、前回議論にあがっていたと思う。順序を変更し、架

け橋プログラムという名称を使用しないこととした。また、実現するための具体的な方策については、粒度を合わせ、文章の統一感が出るように変更した。

(田丸委員)

○目指す姿とそれを実現するための方法について分かりやすくなった。重点取組04の具体的な方策において、やりがい・満足度調査だけでなく、翌年度以降の改善につなげていくことを追加するのはいかがか。また、重点取組05では、ステークホルダー同士の繋がりも重要である。外部資源を活用するのに加え、朝預かりや放課後クラブ、部活動を含めて、様々な人々の繋がりを促進し、効率化と最大化を図ってほしい。

(平岩委員)

○放課後クラブでも、ユナイテッドコーチをもっと活用できないかという議論が出ている。小学校、中学校単位で総合的に調整いただける人材について検討すると良い。

(松本委員)

○全体的に読みやすくなったと思う。重点取組01の具体的な方策において、「コントロールする学び」という記載があるが、コントロールという言葉はとても強い表現のため、変更するべきである。加えて、「デジタル」という表現はあまり使わないと思う。また、重点取組02の具体的な方策について、「探究的な遊び」という表現も違和感がある。

(教育指導課長)

○コントロールは自ら選択する・決めるという意味で使用したが、御指摘いただいた「コントロールする学び」、「デジタル」という表現について、実態に沿った表現を検討する。また、重点取組02における「探究的な遊び」についても、検討し修正していきたい。

(教育長)

○「探究的な遊び」は、「探究を充実させる」に変更するのはいかがか。

(松本委員)

○「遊び・探究」という表現方法も考えられるが、遊びと探究は不可分である。

(平岩委員)

○遊びを手段としている表現になっているため、違和感があるのではないか。  
「探究や遊びの環境を充実させる」はいかがか。

(教育委員会事務局次長)

○国の文章では、「好奇心や探究心を持ちながら遊びを展開する」という表現が使用されている。

(教育長)

○「探究心をもった遊びを充実するための環境を整備する」という表現で、変更を検討していきたい。

(加藤委員)

○重点取組03の目指す姿において、子供が考えていることを鍵カッコ内の文章で記載しているならば、1人称の表現である「自分」に変更すると、他の文章と揃って良いのではないか。また、重点取組05の具体的な方策において、開かれた学校という定義があるのであれば、鍵カッコ表記にすると良い。

(大日方委員)

○重点取組05の本文において、「小学校で朝安心して楽しく過ごせる見守り体制」の部分について、「朝安心して」という表現は分かりづらいので「始業前に安心して」といった表現にすると良い。また、架け橋期については、保健体育の観点では幼児期から小学生だけでなく、中学生から高校生の時期も重要であるので、渋谷区では中学校までではあるが、その観点を持つことも大事なのではと思った。

---◇議事結果 -----

○協議終了とする。

◆協議2

令和7年度修了式・卒業式祝辞について

---◇説明要旨 -----

(※別紙資料2に基づき教育指導課長が説明)

○まず、令和7年度幼稚園修了式式辞、小学校卒業式祝辞及び中学校卒業式祝辞を一読する。

—資料2を読み上げ—

---◇質疑応答 -----

(加藤委員)

○幼稚園の祝辞の2ページ目「これまで一緒にやっていたことが、だんだん一人でできるようになり、頼もしく感じるとともに、少し寂しく感じられることもあるのではないのでしょうか。」において、順序を変更し最後をポジティブな表現に変更すると良いのではないか。また、中学校の祝辞におけるデフアスリートの表現方法について、聴覚の障害ではなく聴覚の違いといった表現に変更するとメッセージとして伝わりやすい。

(教育長)

○デフアスリートの表現方法について、それ以外にも気になるところがあるので、改めて整理する。

(大日方委員)

○中学校の祝辞において、耳が聞こえないことについて考えるシチュエーションが、少し分かりづらい。「音が聞こえづらい状況で耳が聞こえにくい人を含めたグループで話そうとしているときに、皆さんならどのようにするか」など、シンプルな状況を示してはいかがか。また、手話は言語として認められているので、その部分の配慮も必要である。次に、3ページ目の「つついみんな問題ないだろう」の表現について、どんな時にそう考えるのか、具体的な事例を示すと良いと思う。

(田丸委員)

○サインエールなどが、健常者スポーツに近づけることを目的としているという誤解を招かないよう、表現には十分配慮いただきたい。また、渋谷区の子供たちは他の地域と比べても多様な環境に身を置いていると考えられるため、「今よりも更に」といった表現のほうが、現在の実態により即しているのではないかと思う。

(平岩委員)

○幼稚園の祝辞において、「私は大好きです。」という表現があるが、渋谷区長と教育委員会の連名のため、「私」を「私たち」に変更すると良い。

(大日方委員)

○小学校の祝辞について、2ページ目の「北川先生でさえ・・・私は皆さんのことを誇らしく思いました。」という表現は、やや飛躍しているように感じた。

(教育長)

○北川先生と対比するような印象にならないように修正する。いただいた御意見を踏まえ、全体としてより伝わりやすい表現となるよう工夫する。

--◇議事結果 -----

○協議継続とする。

議事終了 閉会

上記記載の記録について相違ないことを認め、ここに署名する。

教育長 伊 藤 林太郎

委 員 大日方 邦 子